

京都華頂大学現代生活学部 こども生活学科 3つの方針

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

こども生活学科では、学部の学位授与の方針に基づき、以下の資質・能力を総合的に身に付け、知識基盤社会の発展に貢献できる力を備えた者に学士(家政学)の学位を授与する。

- (1) 知識・理解
 - ・ 現代の子どもを取り巻く社会の諸問題に関する専門的知識を有している。
 - ・ 子どものより良い成長に資する保育や教育の方法と技術を身につけている。
- (2) 汎用的技能
 - ・ 会話、文章を場面や目的に合わせて適切に使用することができる。
 - ・ さまざまな事象について、統計等を用いて分析し定量的に理解できる。
 - ・ 情報通信技術(ICT)を活用した情報の収集・分析を通して、情報リテラシーを身に付けている。
 - ・ フィールドワークや事例研究を通して、知識を深めるとともに事象を定性的に理解できる。
- (3) 態度・志向性
 - ・ 課題解決のために、社会のルールに従い自らを律して、自己の良心に従って主体的に行動できる。
 - ・ 相互理解による他者との協調を進め、共通する目標のために協働できる。
 - ・ 知識や技能等を活かして社会に貢献し、市民としての責任を果たすことができる。
 - ・ 生涯を通じて学習する意識を持ち、その基礎を身に付けることができる。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
 - ・ 獲得した知識・技能、態度等を総合的に活用して、主体的に企画・立案し、地域、社会の課題解決に貢献する能力を有している。

教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

1 教育課程・授業・学修方法の在り方

- (1) 知識・理解
 - ・ 現代の個人、家族・家庭、地域、社会の諸問題やライフステージに関する知識・理解のために、学部共通の基幹科目(発展科目)を置く。
- (2) 汎用的技能
 - ・ 会話・文章表現について学ぶために、基本科目に英語コミュニケーション、日本語表現法などの科目を置く。
 - ・ さまざまな事象について定量的に理解し、情報リテラシーを身に付けるために、基本科目に情報処理などの科目を置く。
 - ・ 実践的な知識を獲得するために、基本科目に産官学連携実践、教職課程に地域教育実習、各種資格・免許に必要な演習科目を置く。
- (3) 態度・志向性
 - ・ 課題解決のための主体性を獲得するために、保育・教育・福祉それぞれの観点から専門的知識が得られる科目を発展科目に置く。
 - ・ 他者との協調、協働を学ぶため、総合科目に総合基礎演習、学部必修科目(発展科目)に現代生活学演習などの科目を置く。
 - ・ 社会のルールや倫理について学ぶために、発展科目に男女共同参画社会論、多文化共生論などの科目を置く。
 - ・ 知識や技能等を活かして社会に貢献するため、産官学連携実践、キャリア教育、資格・免許の実習科目などを置く。
 - ・ 生涯を通じて学習する意識を身に付けるため、発展科目に生活学分野の多様な科目を置く。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
 - ・ 獲得した知識、技能等を総合的に活用し、主体的に問題意識をもって計画・立案したことに取り組むため、卒業演習の科目を置く。

2 学修成果の評価方法

- ・ 講義、演習、実習を通して知識・理解を深め、諸問題を発見・分析・考察した上で、課題解決のための提案能力が備わったかについて、筆記試験・レポート・口頭発表等により評価する。
- ・ GPAによる客観的な評価基準を適用する。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

(1) 知識・理解

- ・ 高等学校等で履修した教科(国語、外国語等)の学習内容を理解している。

(2) 思考・判断

- ・ これまでに身につけた知識・経験から、子どもを中心とした家族・地域・社会の諸問題に気づき、その背景や自らの生活とのつながりを考えることができる。

(3) 関心・意欲・態度

- ・ より良い生活を創造し、社会全体を発展させたいという意欲があり、生活や社会の問題を発見・理解するために主体的に学びたいと考えている。

(4) 技能・表現

- ・ 他者と積極的に関わることができ、自分の考えを口頭・文章等によって説明することができる。